

---

# 矢胴丸リサは一護の姉

桂 ヒナギク

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

矢胴丸リサは一護の姉

### 【Zコード】

Z6739D

### 【作者名】

桂 ヒナギク

### 【あらすじ】

BLEACH 25巻登場の矢胴丸リサ。彼女の正体が今、明かされる。一護たちに虚園へ乗り込む様に仕向けていたのは彼女が元凶です。

(前書き)

注・これは当方が勝手に考えたオリジナルストーリー。  
その為、当然一護に姉貴は居ない。  
無論、矢胴丸も一護とは血など繋がっていない。  
それでも構わないと言う方は遠慮せずお読み下さい。

虚の棲む世界、虚園。  
ホロウ クヨムンド

辺りは暗く、砂漠が永遠と続いている。

そんな世界に、居てはいけない者が一人。

オレンジ色の長い髪にブラウンの瞳。

一護の様に眉間に皺を寄せているそいつは、黒い死覇装を身に纏い、背中に身の丈ほどある大刀を背負っている。

性別は女。

名は黒崎 美環。

隊には所属していない。

そんな彼女の下に、破面アランカルのウルキオラ・シヒアード現れる。

「こんな所で何をしている?」

「ウルキオラ様、どうして此処に?」

「私は藍染様の命令でお前を連れ戻しに来た」

「藍染? 申し訳ないですが、そいつの命令ならお引き取り下さい」

「藍染様に逆らつつもりか?」

「藍染のやり方は気に食わない。だから私は聽かない。どうしても連れ戻すと言うのなら、今此処で貴方をねじ伏せますけど?」

「死神風情がこの私に勝てるとも思つてはいるのか?」

「試してみますか?」

「そう言って刀を抜く美環。

「否、やめておこう。それに、私も最近、あの人のやり方にはウンザリしている」

「潰しますか?」

「裏切るうとと言うのか?」

「虚側ヒカツガタとしては好都合な話しだと思いますが?」

「確かにの方たちは居てはならぬ存在。だが従つていれば何もされまい」

「怯えてるんですね。私は一人でもやりますよ。虚園を代表して奴を消します」

「どうしてそう憎む?」「

「UJの間、虚園に居る全ての虚からアンケート調査を行った結果、全員が藍染を憎んでいると答えました!」

そう言いながらバーベンツと音が鳴る勢いでウルキオラにアンケート調査の結果表を見せる美環。

「虚の皆は藍染を消したがっています!」

「えつ！？」「

ウルキオラはその事実に少し引いた。

「だから私は皆の代表として藍染に歯向かうのです！そこで、ウルキオラ様には一つ仕事を頼まれて貰います！今からヤミーと共に現世に降りて少しでも戦力になる者が虚園に乗り込んで来る様に仕込んで貰いたいのです！」

「えつ！？」「

「やつてくれますか！？」「

「それは私でなくてはいけないのか？」「

「貴方にしか頼めません！」

「解った、引き受けよう。近々現世に降りるつもりだつたからな。  
しかし、バレたらどうするつもりだ？」

「その時はその時です！処刑でも何でも潔く受けます！それが尸魂界に亡命！<sup>エティ</sup>」

「そうか。じゃあ私はヤミーを連れて現世に降りる。くれぐれも変な真似はするな」

ウルキオラはそう言つて去つて行つた。

一人残された美環は、通信機を取り出した。

「どうもおー毎度お馴染、浦原商店です！」

スピー・カーからはそう聞こえてきた。

「浦原か。至急、現世への穿界門を開けてくれ<sup>せんかいもん</sup>」

「了解ッス！」

浦原がそう言つと、美環の前に穿界門が出現した。

美環は通信を切ると、穿界門を潜つて現世に降りた。

「今日はどの様なご用件で？」

「頼んでおいた擬骸、在るでしょ？」

「勿論ですとも」

浦原はそう言つと、倉庫に行つて擬骸を持ってきた。

「これが頼まれていた矢胴丸 リサです。入ったままで仮面の軍

勢の力使える様にしてありますヨン」

「幾らだ？」

「100・000環でどうでしょう？」

美環はクレジットカードを取り出した。

「円で頼む」

「毎度アリー！」

浦原はそう言つてカードを店のレジへ持つて行つた。

その間に美環は擬骸に入る。

手を動かして「ぴつたしだ」と内心呟く。

「お待たせしました」

戻ってきた浦原が矢胴丸 リサの擬骸に入った美環にカードを渡す。

「黒崎サン、一つ訊ねますが、どうして矢胴丸サンの擬骸なんですか？」

「お前には関係無い。じゃあな」

リサは美環はそう言つと、平子の靈圧を探つて彼の下へ向かつた。

おしまい

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6739d/>

矢胴丸リサは一護の姉

2011年1月2日14時25分発行